

老人ホームにおける腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒

片山 淳

HACCP, 6, 70-73, 2000

1998年11月, 特別養護老人ホームにおいてサラダを原因とする腸管出血性大腸菌O157(O157)の集団発生を概括した.

患者は11月14~23日にかけて発症し, 62人中有症者は32人(内, 菌陽性者18人), 無症状病原体保有者は9人であった.

11月10日の「サラダ」からO157が検出されたが,

サラダの構成食材(大根, レタス, わかめ, マグロの油づけ, ノンオイルドレッシング)からはO157は検出されなかった.

国立感染症研究所において実施された患者由来株とサラダ由来株の遺伝子解析の結果, 遺伝子パターンが一致したこと, 疫学的調査等を総合的に判断して「サラダ」が原因食品と断定された.